

神出シニアコミュニティ

令和2年度事業計画

< 施設理念 >

私たちはご利用者やご家族に安心していただけるようサービスの向上に努めるとともに、ご利用者との心と心が触れ合う施設を目指します

< 基本方針 >

1. 私たちは、専門職として向上心を持ち、知識の習得に努めます
2. 私たちは、専門職として向上心を持ち、技術の習得に努めます
3. 私たちは、専門職として真心込めた、温もりあるサービスを提供します

< 従業員数 > *全事業所

正職員 63名 (男18名 女45名)

P職員 35名 (男10名 女25名)

合計98名

●施設

今期のテーマ 継続とアウトプット

- 今期計画
1. 指導者の育成
 2. 労務管理・職場環境の改善
 3. 管理体制の強化
 4. 地域貢献の充実

1. 指導者の育成

- ① 新入職員指導者・介護実習生の受入れ担当者を増やす。
※外部研修に参加し、指導者としてのノウハウを学ぶ
※報告の場を設け、学んだことを伝える力を身につける
- ② SDCAとPDCAを身につけ、行動出来る職員を育成する。
※Standard Do Check Action（標準化→実行→結果の評価→改善）
※Plan Do Check Action（計画→実行→結果の評価→改善）

2. 労務管理・職場環境の改善

- ① 有給休暇取得率の向上。
※取得日数の偏りを無くす（事前申請の徹底を図り、バランスよく取得出来るよう管理）
- ② コンプライアンスの徹底（ハラスメントの周知）

3. 管理体制の強化

- ① 現状に合ったマニュアルの作成・整備
- ② 各種委員会の必要性を考え、全職員の意識統一を図る。又定期的に進捗状況を報告する。
 - ・事故発生防止委員会
 - 【1】事故報告書、ヒヤリハット報告書を振り返り、《対策》に対し実施・周知状況の確認
 - 【2】くり返し発生している事故内容について発生要因・対策を検討する。
 - ・虐待防止・身体拘束廃止委員会
 - 【1】非利用者本位ケアに気付き、改善に向けて取り組む。
 - 【2】身体拘束3要件が適切に満たしているか確認し、拘束時間の短縮、廃止に向けて取り組む。
 - ・防災・防犯委員会・・・災害や不審者対応に関する正しい知識と認識を備える
 - ・接遇委員会・・・「接遇マナー」を身に付け、利用者様の求めているものを提供できるスキルをもった職員の育成
 - ・労働安全衛生委員会・・・有給休暇取得率向上・残業時間の削減（ノー残業デーの確保）
 - ・褥瘡予防委員会・・・褥瘡の早期発見と予防
 - ・感染症対策委員会・・・感染症の発生・蔓延の防止
 - ・安全委員会・・・医療的ケアを周知し安全に実施する

4. 地域貢献の充実

全事業所（全職員）が一体となり、地域住民・家族と触れ合える施設を作る。

- ① 毎月第1火曜日にふれあい会食会送迎の実施
- ② 毎月第3日曜日に神出シニアカフェを開催
- ③ 防災・防犯に対する情報交換を地域住民交えて行う

● 特別養護老人ホーム

特養入所定員	100名
SS入所定員	20名
介護正職員数	36名（男11名 女25名 介護福祉士有資格者30名）
介護P職員数	20名（男1名 女19名 介護福祉士有資格者6名）
看護師職員数	8名（正5名 P3名）

< 相談員 >

今期のテーマ 相談員間の情報を共有し稼働率の向上に繋ぐ

今期計画 1. 総稼働率97.5%

2. 利用者・家族の意向や思いの把握

1. 総稼働率97.5%

- ① 相談員3名が特養・ショートステイ利用者の状態を共有し、入所・ショートステイ相談に応じられるようにする。
- ② 入院者の状態を把握し、ショートステイでの空床利用に繋ぐ。
- ③ 居宅事業所へ空床情報をFAXする。
- ④ 居宅・老健・病院等への営業活動。

2. 利用者・家族の意向や思いの把握

(1) 家族

- ① 面会時等家族とのコミュニケーションを図り、要望・意向を捉える。
- ② 利用者の状態を把握し、随時家族と話せる関係を構築する。

(2) 行事

- ① 四季に応じた行事を実施する。
- ② 利用者や家族が楽しめる行事を提供する。

(3) 地域貢献・地域交流

- ① 外出・外食の機会を提供する。
- ② 地域の文化祭等への参加。

【特養】

今期のテーマ 多職種との連携を図りスムーズな入所受入れを行う

- 今期計画
1. 実質稼働率96.5%の達成
 2. 入所検討委員会の充実

1. 実質稼働率96.5%の達成

(1) 人員管理

- ① 入所待機希望者を管理し、ショートステイ利用も含め、空床となり次第速やかに入所できる体制を整える。
- ② 老健・居宅・病院との繋がりを強め、入所希望者の紹介を受ける。
- ③ 入院者の管理（病院への面会等）を行い、症状の把握と病院MSWとの連携し、退院許可後の日程調整を早期に行う。又、退院が見込まれない時は、家族の意向を確認し、今後の対応を早急に決定する。
- ④ 入院者の状態把握し、空きベッド利用を更に進める。

2. 入所検討委員会の充実

- ① 速やかな新入所を行う為の、入所検討委員会を随時開催。
- ② 入所申込み者の速やかに状態把握し、入所の可否の判断を行う。
- ③ 新入所者受入れの為の居室・フロア移動等ベットコントロールを早期に検討する。

【ショートステイ】

今期のテーマ 年間稼働率103%達成

- 今期計画
1. 空き情報の提供
 2. 居宅との情報共有と連携

1. 空き情報の提供

- ① 10日毎に空き情報を区域内事業所にFAXする
- ② 毎月10日～15日の間に居宅に営業に行く

2. 居宅との情報共有と連携

- ① 居宅との信頼関係を作る為、書面での情報共有を行う
- ② 地域の研修に参加し、ケアマネと顔の見える関係性を築く

< 介護 >

今期のテーマ 「怒」の心 ～自分がしてほしいことは、人にはしないこと～

今期計画 より良い生活を目指す

より良い生活を目指す

① 接遇力の強化

- ・接遇委員が中心となり、マニュアルの徹底を図る、研修への参加
- ・自ら進んで挨拶ができる職員作り
- ・年上には敬語が遣える職員作り
- ・迷惑をかけた人に礼を尽くせる職員作り

② 当たり前ケアが当たり前になる風土作り

- ・副主任、リーダーが中心となり、指導教育していく
- ・良き見本となる
- ・声をかけ気付いてもらう
- ・実践する

③ レクリエーションの実施など生活に変化をもたらす

- ・副主任、リーダー、担当が中心となり実践する。
- ・レクリエーションについて学習し、実践する
- ・お楽しみ食、クラブ活動、行事は担当が積極的に計画から実施まで行う

④ 1ランク上の生活、ケアを実践する

- ・モニタリング、カンファレンスでは前向きな発言を行う
- ・研究発表に向けてチームで協力し合いながら取り組む
- ・フロア会議や日常でケアの根拠の理解を図る

各フロアの今期目標・計画

【 本館1階 】ご利用者の日々の状態を観察し、体調の変化を早期に発見し、適切な対応をとる。また職員自身が媒介者とならないよう感染症対策に努めます。

【 本館2階 】危険予測が出来る目を養い、事故防止に繋がる環境作り、チームケアを行います。

【 北館1階 】職員一人ひとりが責任感を持ち、根拠を理解意識しながら統一したケアを行います。また、状態の変化に合わせて適宜ケアの見直しを行い、最期まで安心して過ごして頂ける環境を整えます。

【 北館2階 】ご利用者に安心して過ごして頂けるよう、ご利用者の行動や言葉から気持ちをくみ取り想いに寄り添えるように努めます。

< 看護 >

今期のテーマ 安心安全な看護

今期計画 1. 情報を共有する
2. 看護の質の向上

1. 情報を共有する

- ① 連絡ノートを活用 ② 嘱託医への連携ノートの活用 ③ 処置表の活用
- ④ 看護マニュアルの作成 ⑤ 看護師間、他職種とコミュニケーションをとる

2. 看護の質の向上

- ① エビデンスに基づいた看護を意識する ② 施設内外の研修・講習会へ参加する
- ③ 得た知識・情報を伝達し実践する

< 栄養 >

今期のテーマ おいしく、安全に最期まで食べる

今期計画 1. エビデンスに基づいた栄養ケア・マネジメント
2. 給食委員会について

1. 栄養ケア・マネジメントの充実

- ① 食事・水分摂取量と体重の推移に注視する。
- ② ナトリウム (Na) に注視して、食事量の摂取低下を予防する。

2. 給食委員会について

- ① 嗜好調査を定期的実施、献立に随時反映する。
- ② 行事食の打ち合わせ。
- ③ 指導監査の厨房内の指摘項目改善努力について協議する。

< 介護支援 >

今期のテーマ 残存能力を活かしたケアプランの展開

今期計画 1. ご利用者の持つストレングスに着目し、アセスメント・プラン
ニング・プラン実行・モニタリングを実施する
2. 利用者の状態変化に即したケアプランを作成する

1. ご利用者の持つストレングスに着目したアセスメント・プランニング・プラン実行・モニタリングを実施する

- ① モニタリングシート等を活用して、各職種からの意見を抽出する。
- ② 目標の達成度、実施内容、現況、提案事項等、モニタリングを実施する。
- ③ サービス担当者会議で、各専門職の意見を共有し、ケアの方向性を決定する。

2. 利用者の状態変化に即したケアプランを作成する

- ① モニタリングの情報を踏まえて再アセスメントする。
- ② サービス担当者会議で、ケアの内容を検討し各職種間で共有する。
- ③ 褥瘡発生・経口維持加算・口腔衛生管理加算等について、適切にケアプランを変更する。

●デイサービスセンター

利用定員数 35名

介護職員数 9名(男2名 女7名 内P職員1名)

看護職員数 2名(男0名 女2名 内P職員1名)

今期のテーマ CHALLENGE

今期計画 延利用人員 7,775人(25人×311日)

1. 従来型デイからの脱却
2. 職員の資質向上
3. 稼働率65%の達成

1. 従来型デイからの脱却

活動内容の充実を図り選択制を取り入れ、個別化や少数グループ分けすることでご利用者の多様化したニーズに応えます。

また、目的や目標をご利用者と一緒に見出し飽きさせないサービスを提供します。

2. 職員の資質向上

施設の方針を明確に理解して、職分に応じた責務を万全に担い協働できる人材の育成に努めます。

職員は介護知識・技術の向上だけでなく、ご利用者とのコミュニケーション技術も重視します。様々な活動の中でご利用者の気持ちを引き出すことも介護職の専門性と再認識し、更なる接遇面や介護技術の向上を職員一人一人が意識し、自ら考え自ら行動することでケアの統一と質の向上を高めます。

3. 稼働率65%の達成

- ・新規利用者の獲得。
- ・業務フローの見直しで、受け入れ体制を拡大。
- ・集客できるイベントの開催。

●ケアプランセンター

介護支援専門員数 4名(男1名 女3名 内P職員0名)

今期のテーマ 稼働率76%を目指す

- 今期計画
1. 利用者・事業所に選ばれる居宅介護支援事業所となる
 2. 相談支援の専門性の向上
 3. 作成書類の効率化を構築

1. 利用者・事業所に選ばれる居宅介護支援事業所となる

- ① 本人・家族の意思を尊重し、「地域で望む生活を支える」という基本姿勢を重視する。
- ② 地域の医療や介護の各関係機関との顔の見える関係作りを強化し、連携を密に行う。
- ③ ケアプランを自立支援という視点で、個別性のある総合的なケアプランを立案する。
- ④ センターが担当する利用者について、センター内で会議を定期的で開催し情報共有をする。
- ⑤ 地域ケア会議、あんしんすこやか連絡会に参加し、地域のニーズを把握する。
- ⑥ 地域で行われる介護講習会等に参加し、地域とのつながりを持つ。

2. 相談支援の専門性の向上

- ① 外部研修会に積極的に参加し、相談支援の専門性の向上とともに、社会人としての質の向上を図り、事業所全体のスキルアップを図る。
- ② 事例検討会に参加し、自身の相談支援の過程を振り返り、相談支援の向上に繋げる機会を持つ。
- ③ 事業所内の勉強会を開催し、相談支援技術や計画書の作成概念を学ぶ

3. 作成書類の効率化を構築

- ①ソフトを活用し計画書等の提携文の登録やひな形文章を作成する。
- ②介護支援事業所内の書式の統一化を図る。
- ③計画書使用文言についての勉強会をおこなう。